

# 令和7年度第12回 感染症発生動向調査協議会

## 議事概要

1 日 時 令和8年3月18日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室(岐阜市柳戸1-1)

### 3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)  
川本 典生(岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 臨床教授)  
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)  
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 院長)  
高橋 義人(岐阜県総合医療センター 中央検査部部長 兼 臨床検査科部長)  
オブザーバー: 市原 拓(岐阜市保健所 感染症・医務薬務課 感染症1係長)  
事 務 局 : 松尾 孝和(感染症対策推進課 感染症対策監)  
酢谷 奈津(感染症対策推進課 感染症対策係長)  
松岡 真史(感染症対策推進課 技術主査)  
野池 真奈美(保健環境研究所 主任専門研究員)  
吉田 菜穂(保健環境研究所 専門研究員)

### 4 議 題 (進行: 川本委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項について
- (4) その他(感染症対策推進課から)

### 5 議事概要

#### 【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。
- ・(委員より) インフルエンザについては、まだ圏域によっては報告が多いということですね。
- ・(事務局より) 特に飛騨圏域で多く報告が上がっています。医師会のリアルタイム感染症サーベイランスシステムでは減少傾向です。
- ・(委員より) ARIの病原体検出情報について、検査方法を変更したという記載がありますが、どのように変わったのでしょうか。
- ・(事務局より) 検査試薬を変更したことにより、検出できる病原体の種類が増えています。例えば、新型コロナウイルス以外のコロナウイルスやマイコプラズマなどが検出できるようになりました。
- ・(委員より) インフルエンザについてはB型が多いのが今シーズンの特徴です。感染力の強いA型が例年より早い時期に流行してしまったことによって、流行しやすい気候条件を満たしている1月2月に隙間を縫うようにB型が流行しているのではないかと考えています。
- ・(委員より) コロナウイルスについて注目をしています。流行が抑えられているのは事実だと思います

が、これで終息するのか、インフルエンザのように流行する年と流行しない年の波があるのか分かりません。株が変異したりすると傾向が変わることがあると思いますので、今度の夏の感染状況を注視しています。

- ・（委員より）病原性の強さは軽症化しているのでしょうか。
- ・（委員より）病原性が弱くなっているというより、一般の方はワクチンや自然感染によって免疫ができてきていると思われますので、一部の基礎疾患を持っている方などのリスクはあまり変わっていないのではないかと思います。ウイルス側ではなく、宿主となる方の要因が関係するのかもしれない。

#### 【百日咳菌のマクロライド耐性について】

- ・（委員より）マクロライド耐性百日咳菌への対応に関して新たなガイドラインが出ています。特に中国でマクロライド耐性菌が非常に多いとされていますが、日本でも流入していると言われています。
- ・（事務局より）保健環境研究所で検査を行った結果をまとめて資料を作成しています。
- ・（委員より）遺伝子解析を行った14検体のうち、百日咳菌遺伝子不検出が2検体あって、検出された12検体のうち11検体がマクロライド耐性菌となっており、9割以上という高い割合を占めていることが分かります。一般の病院では遺伝子まで見ていませんので、貴重なデータだと思います。